

# ヨーロッパにおける飲料容器デポジット制度の着眼点

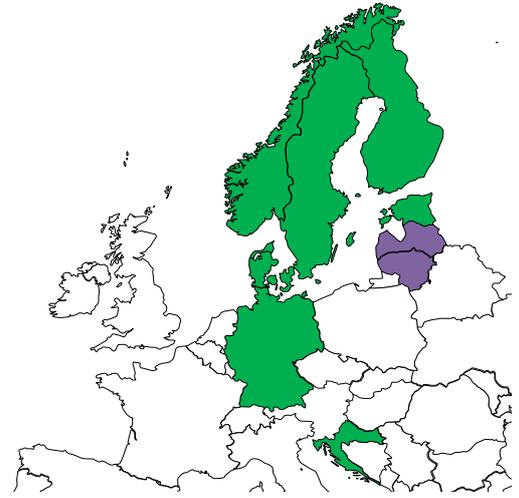
(Viewpoints on beverage container deposit-refund systems in Europe)

○沼田 大輔 (numata@econ.fukushima-u.ac.jp) \* トーマス リンクヴィスト\*\*、東條 なお子\*\*  
\* 福島大学 経済経営学類、ルンド大学 国際産業環境経済研究所

## (I) 概要

- ・ **デポジット制度**: 商品購入時に、製品価格に加えて、ある額を余分に支払い(デポジット)、消費後、容器等を、所定の場所に返却すると、デポジットを返金してもらえる(リファンド)制度(沼田 2014)
  - 業者が自主的に導入しているデポジット制度(主に、リユース瓶に適用)
  - 政府が法的に義務付けているデポジット制度(強制デポジット)(主に、ワンウェイ容器に適用)
- ・ デポジット制度は、**飲料容器**への適用事例が多い。**ヨーロッパの多くの国々で導入**されている
  - 強制デポジットの国々: **図1の緑で塗られた国**
  - 強制デポジットの導入を検討・準備している国: **図1の紫で塗られた国**(なお、リトアニアは2016年2月から実施予定)
- ・ しかし、**ヨーロッパの飲料容器デポジット制度も様々な形があること**、ヨーロッパでも、それらの**情報は十分に整理・共有されていない**
  - 飲料容器デポジット制度について、**他国で実際に起こっていること**の理解難
  - 学術研究が想定しているデポジット制度が、**現実を捉えきれていない**とはいいがたい
- ・ **本研究は、ヨーロッパにおける飲料容器デポジット制度の把握のための着眼点を提起**

図1. ヨーロッパで飲料容器に強制デポジットが実施・検討されている国



## (II) 手法

- ・ スウェーデンのルンド大学 国際環境産業経済研究所 (International Institute for Industrial Environmental Economics: IIIIEE) に、約10ヵ月間 (2013年11月末~2014年9月末)、**拠点を置いた**。
- ・ IIIIEEを起点に、ヨーロッパにおける飲料容器デポジット制度に関する**基礎的情報・関連情報を収集**
- ・ IIIIEEを起点に、人的ネットワークを駆使し、**デポジット制度の運営機関、環境関連の政府機関、使用済み容器の回収主体、専門家、コンサルタントなどへの徹底した訪問ヒアリング調査**を、**ヨーロッパの11カ国**(主に、飲料容器に強制デポジットが適用されている国。図2参照)、**30以上の機関**(表1参照)に実施。これら11カ国の小売など、**関連の現場も多く視察**
- ・ それらから得た**新たな情報・知見から、着眼点を体系化**

表1. 本研究の訪問先

国	訪問先
エストニア	Stockholm Environment Institute Tallinn Eesti Pandipakend
オーストリア	Austrian Institute of Ecology Coca-Cola Hellenic Vienna Univ of Economics and Business, Dr. Vogel
クロアチア	Environment Protection and Energy Efficiency Fund Croatia Ministry of Environmental and Nature Protection eko-ozra
スウェーデン	FTI Returpack Sveriges Bryggerier
スロベニア	Former IIIIEE visiting Ph.D. project student
デンマーク	Dansk Retursystem A/S EXPPA Duals System Deutschland GmbH Merhweg Bielenstein Consulting GmbH Genossenschaft Deutscher Brunnen eG Tomra Systems ASA German Environmental protection agency DPG Deutsche Pfandsystem GMBH
ドイツ	Mepex Norway Ministry of Environment
ノルウェー	Resirk Green Dot Norway Syklus
フィンランド	Finland Ministry of Environment Palpa
ラトビア	Latvia Ministry of Environment Latvijas Zalais Punkts
リトアニア	Zalaisis Taskas Lithuanian Municipal Services and Waste Management Association UAB VSA Vilnius Lithuania Ministry of Environment DESA Utenos Alus

## (III) ヨーロッパにおける飲料容器デポジット制度の着眼点

○は、報告者が関心を抱いている項目  
赤字の点は、報告者が新たに知ったポイント

- **導入理由**: 収集・リサイクル増加? 散乱ごみ削減?  
リユース可能な容器のシェア減少の防止?  
(cf. リユースへの示唆については、沼田(2015)を参照ください)  
**飲料容器の種類を増加させることの正当化?**
- **対象範囲**: 対象容器は? 対象製品は?
- **制度の効果の尺度**: リサイクル率? 容器の回収率?  
リユース可能な容器のシェア?
- **リファンドの財源**: デポジット額を容器ごと・製品ごとにいくらにする?  
※ **デポジット額が、北米などに比べて高い傾向あり**  
例: スウェーデン: 1 SEK(アルミ缶) = 約 14.3円  
アメリカ: 主に5セント(アルミ缶) = 約 7円 (沼田 (2014) を参照)  
→ このためか、ヨーロッパの自動回収機は、**高性能**  
**回収場所は、小売の入り口や中などにあり、治安は悪くない**
- **消費者からの回収拠点で**: 回収は人手? 機械? 屋内? 屋外?
- **回収拠点からのルート**: 回収した容器を圧縮? P箱に入れる?  
どう選別? どう運ぶ?
- **回収やリファンドの効率**:  
**国外から持ち込んだ容器が否かを区別する?** (図3参照)  
**リファンドをどう払う?** (払う対象に制限を加える?)  
**慈善団体などへの寄付も選択可にする?**  
(寄付ボタンを押すことで、宝くじの購入になる場合あり  
(図4参照)) **オンラインゲームと組合せる** (図5参照)?
- **消費者への告知**: 製品・値札などにどう表記する? 告知媒体は?
- **制度の運営**: 回収費用・制度運営費用をどう負担?  
**デポジットの回収・リファンドの充当をどうする?**  
**未返却預り金をどうする?**  
※ **デンマーク...**  
**未返却預り金の使い道が法律で決まっている**  
**未返却預り金の2割を政府が使うことになった (2015年から)**
- **ポリシーミックス**: 他の政策手段(例: ワンウェイ容器の使用に対する課税)と組み合わせ (Numata (2015) 参照)
- **競争**: デポジット制度の対象とする容器の選定、主体間の競争を促すスキームの有無

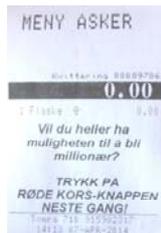


図3. 国外の容器を回収したときのレシート例



図4. 自動回収機における寄付ボタン例



図5. 自動回収機で印字されるレシートで参加できるオンラインゲーム例

図2. 強制デポジットの適用を示すマーク例



## (IV) 今後の課題

- ・ **上述の着眼点をもとに、各々の飲料容器デポジット制度の特徴を、より詳細に描き出し、飲料容器デポジット制度の仕組み・実態の相互理解を図る**
- ・ **昨今拡大が見られる店頭回収への示唆の検討**

### 参考文献:

- ・ 沼田大輔 (2014) 『デポジット制度の環境経済学 ―循環型社会の実現に向けて―』 勁草書房(単著)
- ・ 沼田大輔 (2015) 『ヨーロッパの現状からみる容器リユースの推進に向けた論点』 『環境経済・政策研究』 『環境論壇「リサイクル制度の再評価」』, 8(1), pp. 89-91
- ・ Numata, D. (2015) "Policy Mix in Deposit-Refund Systems" 15th INTERNATIONAL WASTE MANAGEMENT AND LANDFILL SYMPOSIUM (2015年10月5日)で報告予定
- 謝辞: 本研究は、2013-2014年度 科学研究費補助金(若手研究(B)) 「リユース・デポジットの日欧比較」 課題番号: 25870081、2015-2017年度 科学研究費補助金(若手研究(B)) 「リユース・デポジットの世界モデルの構築」 課題番号: 15K16158 の補助を受けて実施しているものです。ここに記して感謝いたします。